

立命館大学 法学部

同窓会誌

意義ある同窓会に！



立命館大学法学部同窓会
会長 羽賀 孝

法学部校友会の皆様には、ますます御清祥で、社会の各分野でたゆまぬ御努力をされていることと存じ、敬意を表するとともに心からお慶びを申し上げます。

一昨年十月、立命館学園創立百周年を記念して法学部同窓会が誕生し、昨年六月には川本八郎理事長、高木茂太市校友会副会長の来賓をえまして第一回総会が京都市内で開催され、百二十余名の出席のもと、意義深い一刻を過ごすことができましたことを喜ばしく思っております。只、惜しむらくは、一九八〇年以降の同

窓生の参加が少なかったことは物足りなく、今後は若い方々の出席も期待したいものでございます。

私も法学部卒業生で法曹界で活躍しておられる組織として、立命館法曹会が一九九三年三月に会員約四〇〇名で創立され、立命館出身法曹間の交流と親睦を図るとともに、立命館大学との連携、協力のもとに司法試験受験者、合格者の激励を始めとする立命館大学法学部の教育、研究活動の支援に取り組んでおられますが、本当に意義あることでありますし、その

会員の中から平成十三年度には水野武夫氏（一九六四年卒）が大阪弁護士会長・日弁連副会長に、福井啓介氏（一九六八年卒）が京都弁護士会会長に就任され大いに活躍されたことは、われわれの誇りでもありました。

二〇〇四年四月には弁護士・裁判官・検事などを養成する日本版ロースクール（法科大学院）が開設される予定で、社会人にも広く門戸を開くなど画期的な方針が示されており、法曹資格に熱い視線が向けられておりますが、今後とも注力して見守っていききたいと思っております。

立命館大学は「教職共同」という堅い結びつきによって学園を運営し、名実ともに私学の雄として益々発展し、二十一世紀の始まる年に創立百一年の新しい歴史を刻み始めておりますが、それも法学部の歴史そのものであり、同窓会を意義あらしめ、拡大するためにも、他学部校友会とも交流を図り、特に法学部各ゼミ・OB会の活動にも関心を払っていききたいと思っております。

当法学部同窓会の設立に多大の御尽力を賜った大河純夫法学部長は、今年の三月をもって学部長を退任されましたが、

厚く御礼申し上げますとともに、今後とも後輩の御教導に御尽力下さることをお願いしたいと思います。

法学部同窓会も発足したばかりですが、今後は意欲的に活動を推進し、法曹・経済・社会の進出への窓口的な役割も果たすことができれども思っております。どうか、同窓会の発展のために多くのご意見をお寄せいただき、拡大をも目指していききたいと思っておりますので、御支援御鞭撻を切にお願い申し上げます。

追悼文集「回想の天野和夫」上梓

一九七八年七月から六年半にわたり総長を務められ、一昨年三月に逝去された天野和夫先生を偲ぶ追悼文集が編纂され、出版の運びとなった。平野仁彦法学部教授が委員長となり編纂委員会を設け約一年半にわたり編纂作業が進められ、天野先生と親交が深かった研究者、大学人ら各界から九二名が寄稿されており、四四四頁にも及ぶ。先生は学園の第三次長期計画の策定と遂行を通じて、その後の長期計画と学園作りの基礎を築かれた。また法哲学会理事長、日本学術会議会員、私立立命館大学連盟常務理事長などを歴任され、日本の学術研究・高等教育に大きな足跡を残されている。追悼文集は三回忌にあたる三月二十三日に上梓された。

（立命館学園広報ユニタースより）

第2回 法学部同窓会総会の報告

2001年6月2日

六月二日、午後二時から、京都全日空ホテルにおいて、法学部同窓会総会・懇親会が開催された。総会には、遠路北海道からの参加者を含め、全国から一三〇名を超える法学部OB・OGが集い、学部同窓会として第二回目となる総会は、大きな盛り上がりの中に終了した。

総会は、羽賀孝会長（丸大食品㈱相談役）の開会挨拶、大河純夫法学部長の挨拶に続き、学園から川本八郎理事長、校友会本部から高木茂太市副会長の来賓挨拶を受け議事に入った。議事終了後は、大井一星副会長（㈱大和百貨店取締役会長）による記念講演「心と感動の経営」

今年の総会・懇親会に私も参加します

*六月一日の総会・懇親会に出席を予定されている名誉教授の皆さんの氏名と松岡先生の俳句です。久々の再会を皆さん楽しみにしています。多くの同級生に声を懸けて、当日は旧交を温めましょう。

伊藤堅三、井戸田侃、岡崎長一郎、志村治美、田村悦一、中井美雄、山下健次、松岡正美、

法学部と ろうすくうるの大事なる時こそ いざ支えむわれら

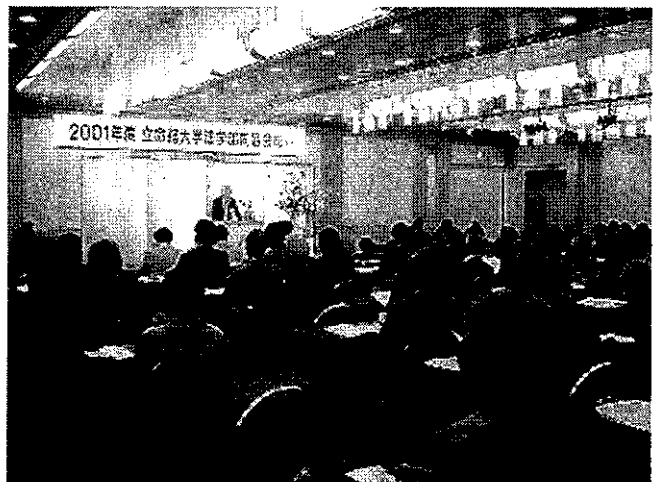
*都合により欠席される名誉教授の皆さんの氏名、近況、メッセージです。

池田 誠、菊井禮次、窪田隼人、辻 善夫、山手治之

当日、私の句碑の除幕式が行われますので、残念ながら出席できません。

ご発展をお祈りしております。
御盛會をお祈りいたします。

塩田 親文
長尾 治助
宮地 國敬
(敬称略 五十音順)



が行われ、参加者に深い感銘を与えた。引き続き懇親会は、赤木文生副会長（立命館法曹界顧問）の挨拶の後、薦田守弘前京都市副市長の乾杯の発声で和やかな懇親に入った。

会には久岡康成常務理事、中村義孝就職部長、伊藤昇総務部長ほか多数の法学部所属・出身教職員が参加し、京都弁護士会、大阪弁護士会の両会長をOBとして擁する我が法学部に相応しい活躍を願うOB・OG諸氏の激励の声に決意を新たにしていた。

(校友会ホームページより)

法学部・新執行部の紹介

二〇〇二年度は、上田寛教授（刑事法）が新たに法学部長に就任しました。執行部の新体制は、学部の役職者が、副学部長・平野仁彦教授（法哲学）、企画委員長・吉村良一教授（民法）、学生主事・堀雅晴教授（現代日本政治論）であり、大学院法学研究科の役職者は、法学研究科長・三木義一教授（税法）、研究科主事・竹濱修教授（商法）、研究科教学委員・和田真一教授（民法）です。

大学全体の役職者は、教学担当常務理事・久岡康成教授（刑事訴訟法）、研究部長・佐上善和教授（民事訴訟法）、図書館長・大瀬戸豪志教授（知的財産法）、学生部副部長・佐藤敬二教授（労働法）です。

法科大学院設置委員会は、事務局長・市川正人教授（憲法）、副事務局長として松本克美教授（民法）、松宮孝明教授（刑法）の体制となっています。

大河純夫教授（民法）が学部長を、中村義孝教授（西洋法史）が就職部長を、そして大久保史郎教授（憲法）、が国際

地域研究所所長をそれぞれ退任されました。

新任教員には指宿信教授(刑事訴訟法)を迎えました。

二〇〇一年度・退職者の紹介

約三十年にわたり立命館大学に勤務された斎藤武教授(商法)が二〇〇二年三月末日をもって退職されました。斎藤先生は、手形小切手法の研究から始められ、会社法、経済法、国際取引法など、商法全体にわたり幅広い分野の研究を進めて来られました。最近では、外国為替やデリヴァティブ取引、銀行法や信託法などにも強い関心をもって研究されていきました。日本私法学会や信託法学会において立命館大学からの理事としてもご活躍を頂きました。立命館大学の中では、一時、法学部から国際関係学部に移籍され、同学部において学部長の重責も担われ、研究面では、立命館大学商法研究会の会長として本学の商法研究の発展に大きな貢献をされました。停年前のご退職ですが、今後は、弁護士としての活動を中心とされ、非常勤講師として立命館大学にみえ

ることです。山形県ご出身の斎藤先生は、スキーをはじめスポーツがお好きで、大変元気でいらっしやいます。斎藤先生の益々のご活躍をお祈りしたいと思います。

法科大学院(ロー・スクール)の創設に向けて

法科大学院の設立に関しては、昨年の本誌でも触れていますが、今年度は、いよいよその作業が佳境に入ります。全国の大学の法学部が法曹養成の課題をいかに果たしていくかが問われています。税理士が税務訴訟に関し代理権を与えられ、一定の試験に合格した司法書士が小額訴訟に関し同様の代理権が付与されます。弁理士も知的財産に関わる訴訟について訴訟代理権を付与されることとなります。また、裁判外紛争処理のあり方も検討されています。このような二十一世紀の日本の司法制度のあり方に立命館大学も大いに意味のある提言をして欲しいものと思います。そのためにも、立命館大学法学部は、立派な法科大学院を創設してもらいたいものです。法科大学院は、二

〇〇四年四月には初めての入学者を迎えることとなります。そのとき、わが法学部がどうなっているか、本当に期待されるところです。

本年度の大学の行事日程

(二〇〇二年度)

- 四月 一日 入学式
- 四月 四日 前期開講
- 五月 十九日 立命館大学創立記念日
- 六月 一日 第三回法学部同窓会
- 六月 中旬 法学大会総会・春期学術講演会
- 七月 二十日 前期定期試験開始
- 八月 一日 夏期休暇開始
- 九月 三十日 後期授業開始
- 十月 下旬 法学会園遊会
- 十一月 中旬 学園祭
- 十二月二十八日 法学会秋季学術講演会
- 冬季休暇開始
- 一月 六日 講義再開
- 一月 二十二日 後期定期試験
- 二月 二日 入学試験開始
- 三月 二十一日 卒業式

同窓会財政強化のため 会費納入および寄付のお願い

二〇〇一年度の卒業式は三月二十一日(春分の日)に行われ、法学部は昼夜合わせて八九六名卒業生を送りだしました。卒業式当日、希望があった二〇クラスが存心館小教室で、ゼミ毎に担当教員から直接卒業証書・学位記を卒業生に手渡しました。また、その機会を活用して、法学部同窓会への加入を働きかけました。当日の卒業パーティーでは濱川事務局長より、同窓会の紹介と加入の訴えをして戴きました。

しかし、新規会員の加入はまだ十分な数にとどいていません。法学部同窓会は任意加入のため、財政は脆弱で法学部の全卒業生に総会案内や会報を郵送できる状況ありません。

事務局では新規に同窓会振込用紙を作成しました。同封の振込用紙を活用して、会費の納入の他、同窓会財政強化のため寄付をお願いします。

通信欄に会費、寄付金を明記して、お振込をお願いします。

- 会費は単年度 二、〇〇〇円
- 五年間会費 九、五〇〇円
- 十年間会費 一八、〇〇〇円 です。

紹介 塩田ゼミOB会

OB会を始めたのは今から二十六、七年前ぐらい。先生がまだ四十歳前半の頃からでした。毎年かかさずやっています。北は札幌、南は福岡から、三十歳代から六十歳後半まで幅広く参加しています。毎年五十人前後参加しています。勿論先生の奥様も参加されています。

先生の還暦祝とかあるいは立命館大学退任記念講義にあわせたOB会では百人近く集まりました。一部はゼミ形式でOBの中から発表者が自分の仕事から論題をきめて発表します。例えば昨年は栗本忠昭氏(愛知銀行)が「預金保険制度とペイオフについて」と題して発表しました。二部は一次会、二次会、時には三次会まで楽しくやっています。

先生が鈴鹿国際大学に行かれてから一度一部を鈴鹿国際大学でやり、二部は近くの柗原温泉で一泊し朝まで語りました。OBも先生が立命を退職されて新しいOBが増えませんので三十歳代から六十歳後半ですが千人は超える人数です。

実際は(住所変更等の理由で)三百人程に連絡しているのが現状です。塩田親文先生のゼミOBの皆様でいまだ顔を出していない方、事務局又は代表幹事まで是非御一報下さい。

事務局(大津市役所児童家庭課内)

川端 豊

TEL 〇七七七-五二八-二七四六

代表幹事

〒六二一-〇〇三三

京都市伏見区深草寺内町八三九

加藤 健二

TEL 〇七五-六四二-五八五五

〔第3回同窓会・記念講演〕

演題 二十一世紀の政と官について

講師 高岡 完治

(財団法人明日の日本を創る協会
理事長・元総理府次長)

(講師紹介)

高岡完治氏は、立命館大学法学部を一九六二年に卒業、国家公務員上級職(甲)合格者として人事院に入り、総理府関係の各部署、公害等調整委員会事務局長、総理府官房審議官、日本学術会議事務局長、総理府次長(一九九九年九月九日-一九九九年七月五日)を歴任、後輩の大きな目標であった。

総理府次長としては、村山富市、橋本龍太郎の両総理を補佐するとともに、事務次官会議のメンバーとして政党と政府、各省庁間の調整にあたった。総理府退官後も、社団法人時事画報社理事長、国立公文書館館長(一九八八年七月-二〇〇一年)を歴任され、昨秋より現職につかれています。

学部時代は法友会で活躍、現在も立霞



会を組織して若手公務員OB・OGを激励するなど、先輩・後進の育成に尽力されている。また時事画報社理事長時代は、本学客員教授として本学学生の指導にも当たられている。

●立命館大学法学部●

同窓会第3回総会の開催

▽2002年6月1日(出) 14時から
▽京都ホテル・オークラ 河原町御池
電 075-2111-5111

2001年度の活動報告、決算報告
2002年度の活動方針、予算説明
同窓会役員改選
記念講演会 高岡完治

※総会終了後に懇親会を行います

▽会費 5000円

総会に先立ち、13時から幹事会を同じ会場で行います。

*オプシオン企画「ゴルフコンペ募集」
6月2日(日)午前10時20分スタート
瀬田ゴルフ場北コースで実施。
5組20人を募集します(先着順)。
希望者はハガキにその旨記入して下さい。